

終章

金沢工業大学は、開学以来、建学の綱領の精神に則り、日本人としての誇りと矜持を持った、国際的に活躍できる技術者の輩出に取り組んできた。

受け入れている学生の資質の多様化、技術分野の広がりや進展、技術者に求められる資質の変化などの社会や時代の要請に応え、

- ・穴水湾自然学苑における、人間形成の一翼を担う自然学苑教育
 - ・高度情報化社会の到来を見越した、先駆的な情報処理教育
 - ・基礎学力の補完教育としてのC A I教育
 - ・ネイティブ・スピーカーによる少人数の実践的英語教育
 - ・情報活用力を育成する図書情報技術教育
 - ・学生の良い素質を伸ばすための褒めの教育（学長褒賞制度）
 - ・基礎的な実技能力の育成を目指す、工学基礎実技センターにおける工学基礎実技教育
 - ・工学基礎実技との一貫性を明確にした工学専門実技教育
 - ・学生に考える行為の実践の場を提供し、能力の総合化を目指した工学設計教育
 - ・学生の自主的な創造活動を支援する夢考房を中心とする創造性教育
 - ・学生の目的意識を明確にさせるための目的指向型カリキュラムに基づく専門コア教育
- など、時代に即応し、先駆けた教育システムの拡充を図ってきた。

これら一連の取り組みは、歴代の学長を中心に、教職員の教育にかける情熱に支えられてきた成果であり、これらを実現し、さらに向上・発展させるために、

- ・学科の新設や名称変更・定員の変更
- ・カリキュラムの改正
- ・教育体制の見直し

などを、学内外の意見を取り入れながら、連続性を以って行ってきた。

近年の、IT技術の急激な進展、環境や人間に対する意識の変化などに伴って、本学の卒業生が活躍することを期待されている技術者の取組む分野が大きく拡大・変貌してきている。本学では平成16年度から、これらに対応するために、取組む領域に応じて、

- ・モノの創造やデザインに関わる「工学部」
- ・環境との共生や建築・都市などのデザインや構築に関わる「環境・建築学部」
- ・情報化社会を支える情報コンテンツのデザインに関わる「情報フロンティア学部」

の3学部体制に移行することを決定している。

ただし、いずれの学部においても、卒業生には、学士（工学）が授与される。そして、本学の教育目標は「人間力を備えた行動する技術者の育成」であり、将来に亘って技術者教育を堅持していくことは、建学の綱領からも明らかである。

大学院については、工学研究科に社会人を主たる対象とした高度専門技術者の育成を目指した1年制の「知的創造システム専攻」（修士課程）を平成16年度に開設し、東京・虎ノ門キャンパスを中心に展開することを計画している。また、全く新しい分野であるが、近年、人々の心理的な側面についての様々な問題が注目されてきていることに鑑み、大学

院に新しく「心理科学研究科」を平成16年度に設置し、臨床心理士の育成を目指す「臨床心理学専攻」（修士課程）を開設することも計画している。

以上のように、常に先駆的な取組みを行い、教育プログラムを能動的に改革していることは、本学が有する進取の気象に富むところであり、強みでもあると認識しているが、反面、比較的短期間に改革・改正を行ってきたことや、変化することを以って善しとし、十分な検証が必ずしもなされていなかった場合も散見される。

こうしたいくつかの問題点も、全学的な見地から行った、この自己点検・評価報告書の作成過程において、本学の現状と問題点を客観的に検証することを通して、明白に浮上してきたものであり、自らを点検し検証することの難しさと大切さを改めて実感している。

今後は、全学的な自己点検・評価活動を継続的に実施していくとともに、その結果について第三者による外部評価を受け、本学の持続的な向上と発展を目指さなければならない。

大学基準協会による相互評価の機会が得られたことは、極めて貴重な経験であり、この成果を活かすための諸活動を継続的に進めていく所存である。

今回、この自己点検・評価報告書の作成にあたり、情報の収集と整理、編集作業などに数多くの教職員に多大な協力を頂いた、改めて感謝の意を表したい。